

途<sup>茂々</sup>と用

七日、馬連井<sup>マリンチン</sup>を経て鹽池<sup>エンチ</sup>に到る。鹹湖あり周圍一里餘、鹽池と名づけ、土民之を煮て鹽を製し、其の産額毎年十萬片に達すと。二十里堡を過ぎて雙井舖<sup>シヨワンチンブ</sup>に着す。此地に兵卒十名を屯せしむ。界牌は高臺縣と肅州の直隸州界に當り、鹹溝堡<sup>シエンコウブ</sup>、黃兆舖<sup>ホワンチヤオブ</sup>は并に無人の境なり然れとも黃兆舖附近は、他の荒漠たる砂地、樹木の乏しきに反し野樹并に<sup>ヂイチ</sup>茂々と稱する一種の野草<sup>其の葉萱の如くにして粗なり</sup>生ひ茂れり、葉を以て燃料或は馬糧に供し、幹は以て蓆子に編み或は穀類の容器に作る等其の用途多し。臨水驛<sup>リンシュエイ</sup>は本日の宿泊地にて、其途上水田を見、且つ臨水河<sup>幅約四十米突水</sup>岸には楊柳多し、行程十七里餘。

八日、氣温又激變、午前は八度、午後二十八度、雙橋燈<sup>シヨワンチヤオデン</sup>、米家庄<sup>ミーファンホンチヤオトシ</sup>、二十里馬房<sup>スーチヨウ</sup>、紅橋墩<sup>マフアンホンチヤオトシ</sup>を経て、行程五里餘、肅州城<sup>スーチヨウ</sup>に入る。此間地形は、依然平野に屬し、河州多く、人家樹木共に増加し、臨水より二十里馬房に到る途次は、水田殆んど相連り、樹木は主に楊柳及び茱萸を生ず。然るに二十里馬房以西肅州間は黃砂鹽を含むが故に、耕地に乏しとす。

肅州城の  
狀況

肅州城<sup>スウチヨウ</sup>は即ち古の酒泉郡にして、人家約五千戸、商人には直隸人、陝西人、山西人、四